

田屋遺跡第3次発掘調査現地公開資料

主催 公益財団法人和歌山県文化財センター

平成31年2月23日(土) 10:00～

このたび、県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良工事に伴い、平成27年度から進めている田屋遺跡の発掘調査を行っています。今回の調査は、約800㎡を対象としています。

田屋遺跡は弥生時代～古墳時代、奈良時代～平安時代の集落遺跡であり、昭和56年度より発掘調査が何度か行われています。これまでの調査では、弥生時代～古墳時代の竪穴建物などが多く見つかったほか、掘立柱建物をはじめとした古代・中世の遺構も確認されています。

今回の調査では、主に奈良・平安時代ごろの遺構が見つっています。北側の調査地3-1区(すでに埋戻し済)から、調査区の東西を横切る大溝や、1間×2間の掘立柱建物とみられる遺構などが検出されました。南側の調査地3-2区(今回の見学範囲)からは、調査区の北東から南西に延びる溝が複数確認されました。



3-1区(北側)(南から)埋戻し済



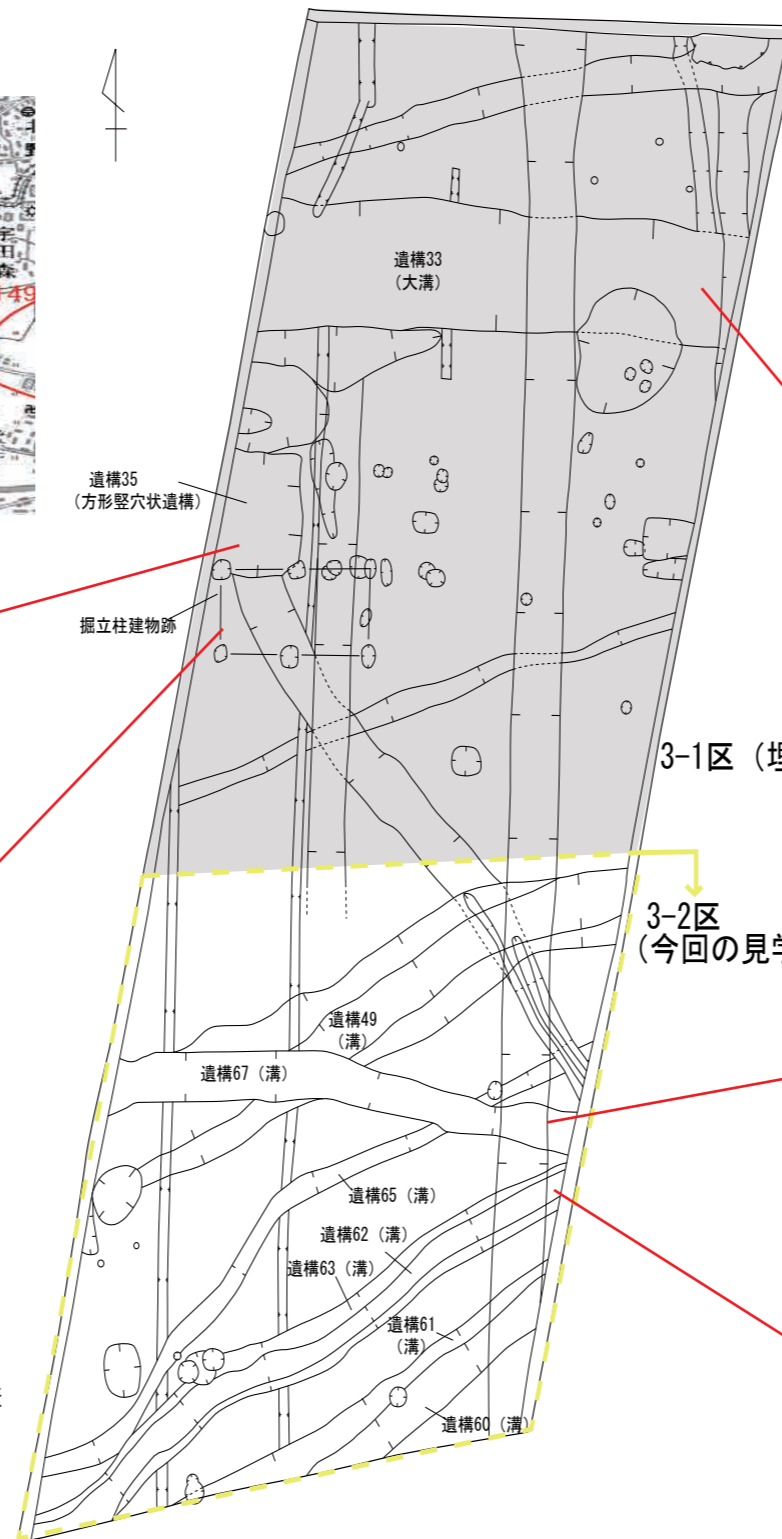
今回の発掘調査位置



方形竪穴状遺構(東から)埋戻し済
柱穴やカマドなどは見つかりません。
焼土部分(写真の○)から出土した土師器から、奈良時代の遺構とみられます。



掘立柱建物跡(南から)埋戻し済
写真の口で囲んだ部分が建物跡とみられる遺構です。
北側の竪穴状遺構や柱穴の間を横切る溝よりも後の時期にできたとみられます。



検出遺構の模式図

0 8m



←3-1区の大溝(東から)埋戻し済
調査区の北部で見つかった大溝は、幅約3m・深さ約1.7mです。
溝の底に須恵器が多く溜まっており、これらの年代から、この溝は7世紀末～8世紀(奈良時代)に使われていたと考えられます。



←遺構67(東から)今回の見学範囲
遺構49など調査区の北東から南西に延びる溝よりも後に作られたとみられる溝67では、多数の須恵器・土師器が出土しており、これらの年代から溝67は7世紀末～8世紀ごろまでのものと考えられます。



←遺構61・63(東から)今回の見学範囲
3-2区では、調査区の北東から南西に延びる溝が複数条見つかりました。